

金沢市DX推進への 提言

2023年10月24日

金沢市DX会議委員

稲継裕昭（早稲田大学）

提言内容

①地に足のついたアクションプランを

- 達成度評価をしっかりと

②マイナンバーカードbyデフォルト

- 職員の取得率100%へ

③事業系、ハード系のDXもどんどん進める

- 教育、文化、地域のアクションプランは充実。事業系、ハード系への展開も

④デジタル行政推進リーダーの積極的な活用

- せっかく育成した「宝物」をどう活用するか

①地に足のついたアクションプランを

- 目新しいバズワードに振り回されず、まずは達成度評価をしっかりと
- 何が達成できて、何が達成できていないのか
- 達成できていない理由は何なのか
- どうすれば達成できるのか

- しっかりと検証をすることが必要

②マイナンバーカードbyデフォルト

- 取得率を上げるにはどうすればいいか
 - まずは職員の取得率を100%に
(5年3月末 85.8%。[昨年10月末 82.0%] +3.5pt)
(市民の取得率
5年8月末 72.1% [昨年10月末 46.5%] +25.6pt)
- 市民が協力してくれているのに、職員の取得率が100%にならないのはどうしてか

職員の取得率100%を目指して

・ハードな戦略

- ・ マイナンバーカードと職員証の一体化（国と同様に）
（昨年も、一昨年も提言→いまだ実現せず）
- ・ PC起動の際のカードリーダーにマイナンバーカードを必須化
- ・ 残業申請にマイナンバーカードでの登録必須化

・ソフトな戦略

- ・ トップからの強いメッセージが必要

③事業系、ハード系のDX もどんどん進める

- 教育系、文化系、地域系はある程度充実しつつあるも、ハード分野、事業分野へのDX活用が遅れている
- 例えば、
 - 土木交通関連
 - 道路損傷箇所パトロールのDX化 (スマホと運転手のみ)
千葉市他多数
 - 除排雪作業の見える化(生活道路にも)
青森市や鳥取市 + α (スマホ)
 - 浸水センサーで冠水・氾濫状況の見える化
秋田市 + α

③事業系、ハード系のDX もどんどん進める

- 農業分野

- 有害鳥獣捕獲わな監視のDX化

飯塚市

- 防災分野

- 住民基本台帳、要支援者名簿とGISの連携

会津若松市 統合GISの活用

- 地元産業分野

- 地元企業間の受発注内容や出荷状況、請求書などの様々な取引情報のやり取りのクラウド化

燕市：燕版共用受発注システム構築

④デジタル行政推進リーダーの積極的な活用

- 150時間の研修を経て推進リーダーを育成
- 現在3年度目　すでに40人のリーダー
- 彼らのノレッジをできるだけ活かすような、仕組みづくりの必要性
 - 各職場でのリーダーの貢献
 - スポットでの全庁的な手伝い
 - だけではせっかくの「宝物」の持ち腐れ
- →組織全体としてうまく活用できるような仕組みづくりをする必要性